

全国教研全体集会開催地教組あいさつ

三重県教職員組合 中央執行委員長 山門 真

みなさんこんばんは、第75次全国教研分科会開催地運営委員会、三重県教職員組合の山門です。

本日は、全体集会へのご参加ごくろうさまです。来週末には、全国の仲間である多くのみなさんを三重の地に迎えることになります。さまざま不手際もあろうかと思いますが、三重県教組一丸となって、みなさんの分科会での活発な議論をしっかりとサポートできるよう、とりくんでまいりますので、どうかよろしくお願ひします。

さて、報道でお知りいただいている方もおられるかと思いますが、三重県では昨年末、一見三重県知事が突如として、県職員への外国人の採用、いわゆる国籍条項を見直す方向で検討をすすめることを表明しました。たまたまですが、その当日、わたしも三重県教組は中央委員会を開催しました。中央委員会では、当然にもそのことが議論となり、中央委員からは、「今、期限を付さない講師として懸命に働いている仲間がいる。知事の発言はその思いをふみにじっている。」「多文化共生が子どもたちのゆたかな学びにつながると考えてとりくんできたのは、県も同じではなかったのか」など、非難の声が上がりました。

知事は、連合三重、三重県教組推せんの知事でもあります。

その日のうちに、直接知事に中央委員会での議論の様子を伝えるとともに、わたしは、知事にこう言わせていただきました。ネットでは記事に対するコメントの多くが知事をほめたたえている。それらをすべて読んで、あなたの発表がどのような結果をもたらしているのかしっかりと感じていただきたい。と。

許可を得ていませんので、知事がそれに対してどう反応されたかは、ここでは申し上げませんが、今、わたしたちは、人権団体や、自治労県職労、連合三重とも連携しつつ、国籍条項の見直し方針の撤回にむけて、緊急要請を行うなどとりくみをすすめているところです。

本日の記念公演のテーマは、“「出会えてよかった」すべてのいのちに輝きを”です。三重県教組にとってこれほどタイムリーなテーマはないと正直驚いています。

全国から三重に集っていただくみなさんをこころより歓迎します。そして、わたしものとりくみに対して、エールも送っていただければと思っています。どうかよろしくお願ひします。